

5 年生保護者の皆様

広島市立白島小学校
校長 松崎 良孝

平成 25 年度「基礎・基本」定着状況調査結果について

平成 25 年 6 月 11 日（火）、広島県下の小学校 5 年生を対象に、国語・算数・理科における前学年までの学習内容の定着状況と、生活・学習に関する意識・実態についての質問調査を行いました。本校・広島市・広島県の通過率（％）は次表の通りです。

	国 語	算 数	理 科
白島小（％）	70.5	68.3	61.9
広島市（％）	66.0	66.7	57.9
広島県（％）	70.1	69.8	61.3

本校では、各教科の領域ごとの通過率や、生活・学習に関する意識・実態調査をもとに、次のように分析し、今後の指導に役立てたいと思っております。

国語

領域ごとの 通過率(%)	I 聞くこと	I 書くこと	I 読むこと	I 言語事項	タイプ I	タイプ II (読む・書く)
白島小	85.5	73.3	77.6	73.5	76.2	45.0
広島市	80.0	68.8	72.3	72.8	73.2	33.8
広島県	84.5	73.4	74.2	77.1	77.2	38.2

※タイプ I（「基礎・基本」に関する問題）、タイプ II（「活用」に関する問題）

「聞くこと」・「書くこと」・「読むこと」・「言語事項」のすべての領域に関して、基礎的・基本的な力はついています。しかし、教科で学習した知識・技能を実生活や学習の様々な場面で活用する力などに課題があると考えられます。特に、文章や資料を読み取る力が弱く、問われている内容が確実につかめていないことがあります。また、文章で答える問題に答えていない児童が多いという傾向もあります。

そこで、文章を正しく理解したり表現したりするために、主語と述語の関係を繰り返し取り上げたり、分かりやすい文章の書き方のポイントを示し、書いた文章を見直しさせたりするようにします。例えば、長い一文を接続語を使って複数の文に分けるなど、意味を分かりやすく伝える文章の書き方を指導していきます。また、多様な読書活動を取り入れ、読書の量だけでなく、質も高められるようにします。

算数

領域ごとの 通過率(%)	I 数と計算	I 量と測定	I 図形	I 数量関係	タイプ I	タイプ II (数、量・数量)
白島小	79.0	59.5	50.5	74.1	67.8	70.5
広島市	81.9	56.3	50.6	66.8	66.7	66.4
広島県	84.3	60.4	55.9	69.4	70.1	68.1

※タイプ I（「基礎・基本」）、タイプ II（「活用」数と計算、量と測定・数量関係）

「数と計算」・「数量関係」の領域に関して基礎的、基本的な力はついています。また、活用する力もおおむね定着していると考えられます。しかし、「量と測定」・「図形」の領域に課題があります。特に、正方形や直方体などの図形の定義や性質の理解が十分でなく、情報を整理して判断し、自分の考えたことを正確に説明することも苦手なようです。

そこで、既習図形の定義や性質を復習しながら、今後の図形単元の学習を行います。また、自分が考えたことを数学的に表現したり、友達に説明したりすることの指導を充実させていきます。また、算数の問題を身近な生活の場面に結びつけるよう工夫し、児童の生活の中で具体的に活用できる楽しさを知ること、主体的に学習に取り組む態度を持たせます。

理科

領域ごとの 通過率(%)	生命	エネルギー	地球	物質	タイプⅠ	タイプⅡ
白島小	76.1	51.8	61.8	57.1	63.9	58.4
広島市	74.1	47.7	52.4	56.0	60.2	53.8
広島県	75.3	52.9	55.8	60.1	63.9	56.8

※タイプⅠ（「基礎・基本」に関する問題）、タイプⅡ（「活用」に関する問題）

基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着していると考えられます。しかし、直列・並列つなぎの回路の名称や理解に課題が見られます。また、グラフの縦軸と横軸の関係を問う問題の通過率も低いです。学習で身に付けた事象の深い理解も十分ではありません。

そこで、理科的な用語をしっかりと押さえ、体験したことや分かったことを、学習で身に付けた理科的な用語を使って説明させるよう心がけます。また、日頃から文章をじっくりと見直しを持って読むことや、表やグラフ等の資料を読み取ることができるよう指導していきます。さらに、学習内容と実生活を結び付けた単元のまとめを行うようにしていきます。

生活と学習に関する意識・実態調査

全体的に、基本的な生活習慣はほぼ確立されています。しかし、学習時間・読書時間・テレビやゲームの時間などの分布に偏りがあり、基本的な生活習慣が十分身に付いている児童と身に付いていない児童が固定化されているようです。また、物事を解決するとき理由を考えたり、人に伝えるときに順番を考えて説明しようとしたりする児童が7割とやや低く、物事を解決する方法をいくつも持っている児童も半数しかいないということから、思考力にも課題があると考えられます。

今後は、引き続き「生活リズムカレンダー」を効果的に活用して、生活リズムの改善ができるよう意識させていきたいと思えます。また、学習時間だけでなくさまざまな活動の中で、自分で考え見直しを持って行動することを指導していきます。さらに、ペア学習やグループ学習を多く設定し、自分の言葉で相手を意識して表現する習慣を身に付けるようにしたり、友達の考えを聞いて自分の考えを広げたり深めたりすることの大切さに気づき、より多面的な思考力を身に付けることができるようにしたいと思えます。

以上の点をふまえ、今後学校では、より一層の基礎・基本の定着を図るため、朝の読書・帯タイムを継続しつつ、一人一人をしっかりと受けとめ、個に応じた指導を工夫しながら授業の充実を図りたいと考えています。

子どもたちに確実な力をつけるため、ご家庭でも機を逃さず、肯定的な言葉かけなどの励ましで、やる気を引き出し、自信をもって学習に取り組めるようご協力をお願いいたします。

なお、お尋ねになりたい点がございましたら、お気軽に学校へお問い合わせください。

(221-3012 教頭 新田)

(参考…過去3年間の通過率(%))

	平成22年度			平成23年度			平成24年度		
	県	市	白島小	県	市	白島小	県	市	白島小
国語	82.3	81.0	85.1	78.5	77.3	78.1	75.8	74.1	76.3
算数	79.0	77.6	77.7	77.8	76.2	79.0	75.0	72.9	74.1

